

おけがわ旅籠ふれあい庁舎



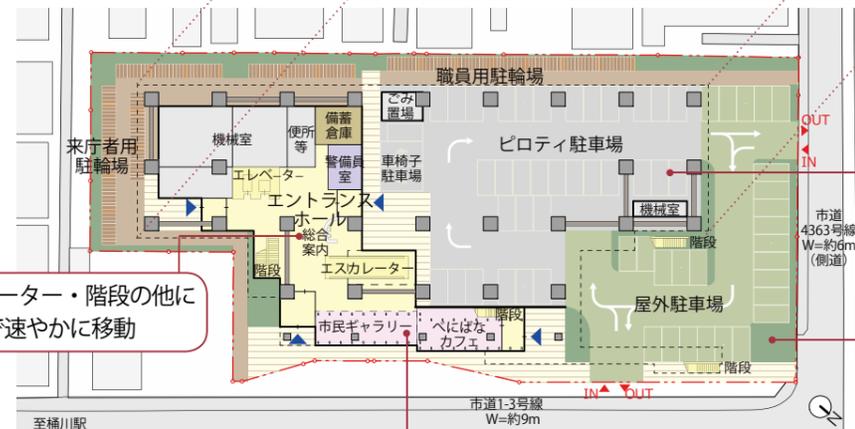
市道側から見た外観イメージ

新庁舎設計の考え方

- 1. 立地特性・周辺環境等に配慮した庁舎**
限られた敷地を有効に使った建物配置と、周辺住宅に配慮したボリューム構成で、ふれあい庁舎の「顔」をつくります。
- 2. 防災・災害復旧拠点としての役割を果たす庁舎**
防災・災害復旧拠点として、災害発生時に安全で、災害直後も継続して使える庁舎をつくります。
- 3. 建設コストの縮減及び維持管理の容易性やランニングコストの低減に配慮した庁舎**
建設・ランニングのバランスに配慮し、総合的なコスト削減を図ります。
- 4. 自然エネルギーの活用や省エネルギー化等による環境負荷の低減に配慮した庁舎**
桶川の気候と敷地条件に即し、庁舎としての最適な環境技術と、市民の憩いの場となる快適な空間をつくります。
- 5. 市民が利用しやすく、時代の変化に柔軟に対応可能な庁舎**
分かりやすい平面構成、迷わない空間構成と、入りやすい雰囲気、安全な設えを備えた使いやすい庁舎をつくります。
市民の交流の場をやさしく包み込み、市民がふれあう空間をつくります。

計画概要

敷地の場所：桶川市泉1-3-28（旧庁舎の位置）
 敷地面積：約4,180㎡
 延べ面積：約8,300㎡（駐車場除く）
 主要構造：鉄骨造/免震構造（1階柱頭免震）
 階数：地上5階 塔屋1階
 駐車台数：約60台
 駐輪台数：約200台



1階平面図

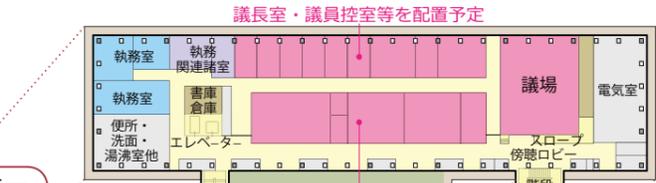
駅からの歩行者、自転車の動線、自動車の動線が交差しない「歩車分離」

入りやすい雰囲気と交流が盛んになる開放ゾーン（市民ギャラリー、カフェ等）

2階窓口へエレベーター・階段の他にエスカレーターで速やかに移動

防災スペースとして救援物資の受入れや緊急車両スペースにも使用

機能性、周辺の街路樹とのつながりに配慮した植栽



5階平面図

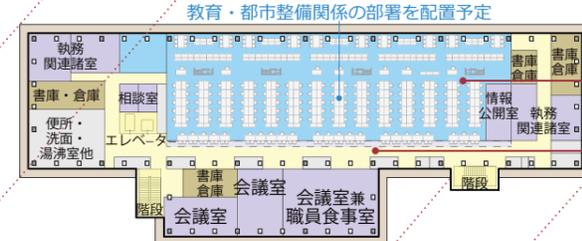
階段室をソーラーチムニーに利用

議長室・議員控室等を配置予定

議事事務局・委員会室等を配置予定

まとまった片側執務室

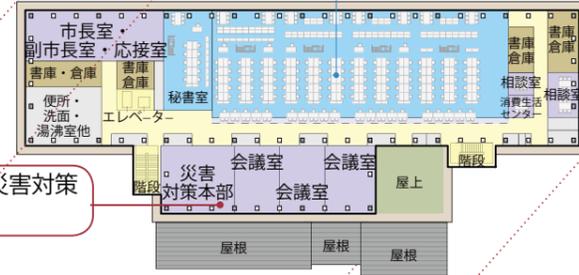
EVホールからシンプルで迷わない動線



4階平面図

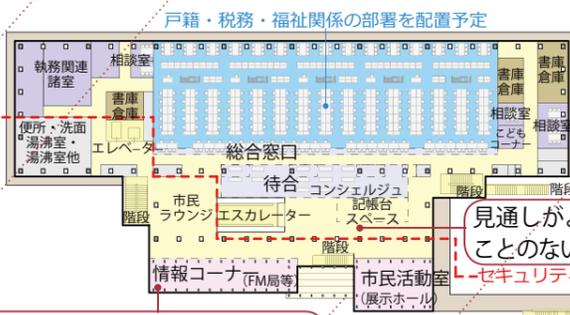
教育・都市整備関係の部署を配置予定

企画財政・生活環境・産業関係の部署を配置予定



3階平面図

3階会議室を災害時には災害対策本部として使用

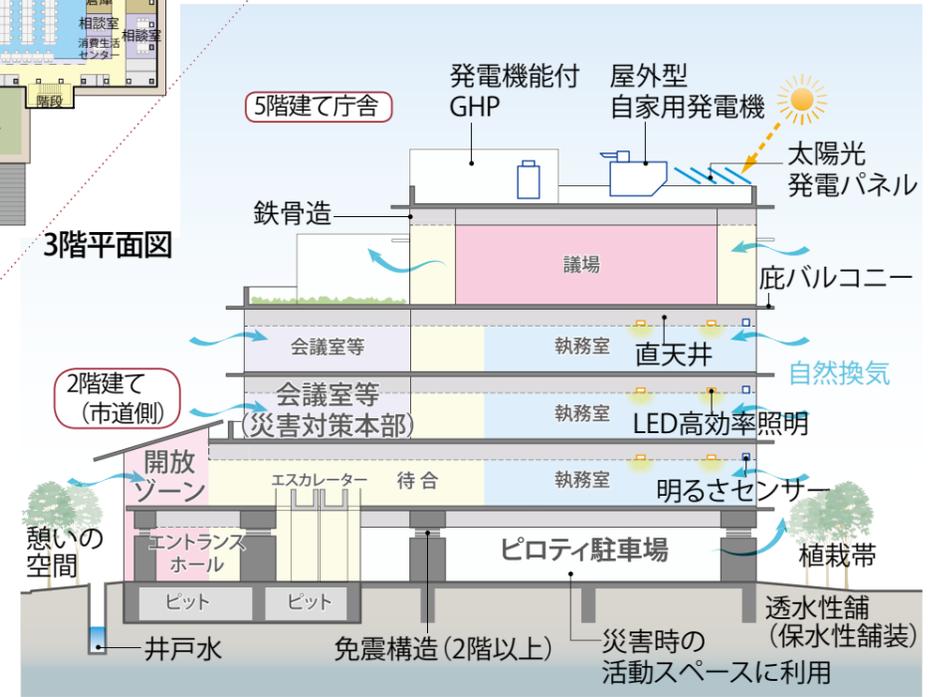


2階平面図

見通しがよく、迷うことのない空間

セキュリティライン

情報コーナーとして活用し、災害時は市民の一時避難やボランティア、プレス拠点としても使用（情報コーナー、市民活動室等）



断面イメージ



駅方面からのアプローチイメージ